

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591100011		
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームふなみ		
所在地	北秋田市鷹巣字本屋敷114番地3		
自己評価作成日	令和2年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いやできる事を大切に、要望に沿って支援しています。また、生き生きとした生活が送れるよう地域の行事に参加し外出の機会を作っています。社会福祉協議会という母体を活かし地域との連携、法人内部専門職との連携により安心できるサービスの提供を致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍にあって交流行事を中止していますが、町内にホーム通信を配布して交流の継続を図っています。町内にホームの防災担当者が数名設置されていたり、折に触れて声をかけていただいたり地域に支えられながら地域に根差したホームづくりが進められています。制限が多い状況ではありますが、リモート面会を取り入れたり、車中ドライブや開放的な場所を選んで野外ランチに出かけたりして少しでもストレスが緩和できるよう取り組んでおり、感染防止に努めながらできることを継続し、継続できることを模索しながら地域の中で生活できる支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆の目の届く所に掲げ共有している。	年度初めに理念に沿った支援の継続を確認し、実践できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふなみのお便りを毎月地域に配布し回覧してもらっている。又、地域での活動を施設で行いたいなどの話もある。	コロナ禍で活動が大きく制限されていますが、町内会長に声をかけていただいたり、差し入れをしていただいたりしてホーム自体は地域との一員として交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議の中で理解を深められるよう活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度報告事項として状況報告を行っている。避難訓練では協力を得ている。	対面での会議は開催していませんが、書面で状況を報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修会などの依頼等協力を得ている。	運営推進会議の資料を届けた折に話す機会がある他、生活保護担当部署とも連絡を取り合っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で全職員が資料に沿って勉強し身体拘束は行わないよう取り組んでいる。疑問に思うことは、身体拘束等適正化委員会へ相談したりしている。	適正化委員会や研修を通じて職員への周知を図り、職員同士で対応を話し合ったりしながら身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し学んだことを全職員に発表する場を設け落とし込みをし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学んではいるが今の状況では活用する機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は来所して頂き説明している。又、変更時は、その都度書面、電話にて連絡し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族アンケートを行っている。また、苦情解決第三者委員の方に対応して頂いている。	利用者及び家族からのトイレや駐車場等の環境についての意見や薬の相談に対応しており、運営に反映できるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回面談を行い個々の意見を聞き、法人内へ要望、改善点伝えている。	業務中やミーティングでの話し合いを日々のケアに活かしています。職員の意見、要望は管理者を通じて法人に伝えられている他、職員のストレスチェックを行って就業環境を整える取り組みも行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年1回代表者と面談し職員の意見を伝え職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は法人内の新任研修へ参加している。希望する研修へ参加したり、管理者が個々のレベルに合った研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと合同で運営推進会議を行ったりし情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事等に耳を傾けながらサービスを導入している。安心感を持って生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族などから困っている事不安な事等を聞き取り、家族も安心できる関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は立場を相手に置き換えながら共同生活をする者として意識を忘れず関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は共に本人を支えていく事を共通目的として家族との関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防(新型コロナ)の影響で面会など難しくなっているがリモート面会を活用し家族と交流している。	面会を制限していることから電話で会話することが増え、また、リモート面会を取り入れたことで利用者が少しは落ち着くことができ、関係継続のための工夫をしています。馴染みの理美容院の利用も続けています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を尊重して利用者同士が仲良く共同生活を送れるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の不安や要望を聞き退所後の方向性等出来る範囲で対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な場合であっても普段の生活の様子を見ながら本人の希望や意向の把握に努めている。	利用者が答えやすいように聞いたり、普段思っていることを話してくれた時のことを職員間で共有し、介護計画の見直しに繋がっています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で会話を心掛けることで、これまでの暮らしや職歴などを把握しサービスの提供に繋がっている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員による支援経過の記録、ケアの中で気付いた事をノートに記入するなど個々の現状把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意向を確認しながら長期短期目標を設定。更新時には現状と今後を踏まえて話し合いを行い介護計画を作成している。	様式を変更したことでモニタリングに活かされ、担当職員のモニタリングを経てカンファレンスで意見を出し合い、介護支援専門員が介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録や情報共有ノートを確認してから業務に就いている。変化があった際はその都度記入し口頭でも情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通年であれば近くの小学校や町内会の行事に参加し交流を図っているが、今年は感染症対策のため外出を控えており、交流できていない。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重したかかりつけ医を受診しており、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者それぞれのかかりつけ医で受診しており、希望に沿った支援が行われています。家族には看護師がその都度受診報告をしています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェック等で変化に気付いた時は看護師へ報告し必要であれば受診している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と定期的に情報交換し関係づくりをしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応に係る指針を家族に説明し同意を得ている。又、終末期についても同様である。	入居時にホームの指針を説明しています。医師の確保が難しいことから看取りには対応しておらず、状態の変化に応じて他施設の申し込みを勧める等、家族の希望を聞きながら納得できるよう説明しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回勉強会を行っている。避難訓練等に参加した際に実践訓練を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練を実施している。地域の方や消防署員にも参加してもらい指導及び意見交換している。	2ヶ月に1回自主訓練を行っており、その中で消防と意見交換し、状況にあった提言をもらっています。地域との協力体制ができており、町内にホームの防災担当が数名設置されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会で取り上げ職員の意識付けをしている。	日々のケアにおいてプライバシーの確保を心がけるよう注意喚起しています。また、インシヤルを使用して申し送りを行う等、利用者の気持ちに配慮しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全員ではないが馴染みの床屋や美容院を利用している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出、外泊等は希望に添えていないが、できるだけ希望に沿って支援できるよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が来所し散髪している。染めたり希望がある方は、行きつけの美容室へ通っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえとして野菜を切ってもらったり、お盆やテーブルを拭いてもらっている。食事は利用者の状況に合わせた食べ易い形態で提供している。また、下膳も一緒に行っている。	調理の過程でできることを手伝っていただき、利用者の力が発揮できる場面づくりが行われています。季節毎に在宅時の習慣を思い起こすことが多く、職員はそれに応え、利用者の気持ちに沿っています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の食事と10時15時のお茶の時間で栄養や水分を摂取している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。就寝前には義歯を預かり洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の間隔に合わせて定期的にトイレ誘導を行っている。パット類に関しても排尿量に合わせたパットを使用している。	布パンツで過ごしている方が多く、介護度の高い方も排泄用品を日中と夜とで使い分けしており、職員が意見を出し合いながら状態を確認してその人に合ったものを使用し、現状が維持できるよう努力しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取を心掛け運動の声掛けをしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自分のペースで入浴できている。	1日おきに入りたい方、拒否のある方等、その時々希望や状況に応じて入浴できるよう支援しています。水虫のある方には入浴日以外にも足浴を行い清潔を保っています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムがあり休息や就寝誘導している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は、看護師が薬剤師に副作用など確認している。それを職員間で情報共有している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえや掃除の手伝い、歌会等のレクリエーションを行い生活に張りを感じたり、気分転換できるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍にあり受診以外の外出は最小限に控えている。	新型コロナウイルスの影響が大きく、外出の機会は減少しています。帰宅願望のある方はホームの周囲を歩くことで気持ちが落ち着き、通院で出かける他には花や野菜のお世話をしています。また、お弁当を持って出かけたリ車中ドライブを楽しんでいただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もいるが、ほとんどの方が自己管理難しく施設管理となっている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し自ら連絡をとっている方がいる。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外部業者の委託清掃の他に定期的に職員が清掃、消毒を行っている。掲示物などで季節感を感じてもらっている。	感染症の発生に伴い、一定の時間を決めて換気を行い、温度、湿度にも気を配っています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場所と居間の空間を分け、好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は使い慣れた家具の持ち込みや動きやすい空間作りに努めている。	ベッドはホームで用意しており、高さを調整する等、その人の状態に合ったものを使用いただいています。ソファやテーブル、タンス、家族の写真等を持ち込み、本人が過ごしやすい環境をつくっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所が分かるよう表示板を利用している。また、安心して歩行できるよう手すりを設置している。		